

ていました。

午前 1:50 頃になり、私たちは精いっぱいの勇気をかき集めて自宅へ戻り、また持てるだけの物をバッグに詰めました。携帯、パソコン、毛布、水、軽食、大切な書類、洋服、タオル、1 週間は避難するつもりで、大きなバッグに詰めました。私たちは、桜山中に午前 2:20 頃に到着しました。寒い夜でした。驚いたことに、200 人以上の人々が学校の外に集まっていました。そこで私は、学校の校舎ももはや安全とは言い切れないと耳にしました。私たちは朝 6 時まで、また屋外で夜を明かしました。睡眠不足と恐れ、不安から、今回私たちは話をすることも出来ないほど疲れきっていました。人は、どれ程屋外で耐え抜けるもののでしょうか。ついに太陽がのぼりました。

午前 7:15、一滴の水もありません。水道管の破損により、水の供給はストップしているのだと聞きました。全てのコンビニは閉まっていた。私たちは、どこか他の避難所は無いかと、必死になって探しました。幸いにも、私たちの大学が支援を提供していると分かりました。私たちは大学へと移り、100 以上もの他の家族たちと一緒に、講堂の一角にうずくまりました。食べ物、水、敷物、毛布が配られました。このことには本当にほっとしました。これで生き延びられる、と



避難先で友人達と

思いました。そこで友人や、他の家族と会えたことに、本当にほっとしました。しかし、続く余震が私たちの希望を打ち砕きました。不安は増大し、両親からの電話は鳴り

やまず、自国へ帰るべきなのではという考えが濃厚になっていきました。3～5 弱の余震が止むことなく続きました。

4 月 30 日までの 2 週間の間、私たちは避難所にとどまりました。同じ被災者である日本人の、安全への素早い備えや、他に助けを必要とする人々を助ける姿勢は、本当に尊敬に値するものでした。熊本市だけでも、地震の直後に約 200 を超える避難所が開設されたと聞きました。

【4 月 30 日】

午後 4 時、私たちは、やっと自宅へ戻ることができました。マグニチュード 9.8 を記録したネパールの地震の記憶が、私たちもきっと生き延びることができる希望を持たせてくれました。もう一度、第 3 の地震が来るのではないかとこの恐怖はありました。より深刻な被害を受け、多くの死者の出た益城ではなく、熊本市にいられたことは幸運なのだと思います。阿蘇

や、その他の東北地域も、深刻な被害を受けました。地滑りや、押しつぶされた家、家を失った人々のニュースが、全国ニュースになりました。しかし、私はこうして生き延びたことを幸運に思うべきでしょう。ありがとう日本、ありがとう熊本大学。

熊本地震の概要

- 前震 発生日時：平成 28 年 4 月 14 日（木）
21 時 26 分
震源地：熊本県熊本地方
（震源の深さ：11 km）
規模：マグニチュード 6.5
熊本市内震度 6 弱（県内最大震度 7）
- 本震 発生日時：平成 28 年 4 月 16 日（土）
1 時 25 分
震源地：熊本県熊本地方
（震源の深さ：12 km）
規模：マグニチュード 7.3
熊本市内震度 6 強（県内最大震度 7）

熊本市内被害状況（6 月 27 日 現在）

人的被害：死者数 14 人（関連死 10 人を含む）、
重傷者 254 人
家屋被害：全壊 2,365 棟、
半壊 12,359 棟、
一部損壊 72,121 棟

最大避難者数：約 11 万人
（4 月 17 日 08 時頃時点）

熊本市の人口

総人口 739,991 人
（平成 28 年 4 月 1 日熊本市の推計人口より）

在留外国人数

4,497 人（平成 28 年 3 月末現在）

中央区 2,220 人、東区 796 人、西区 550 人、
南区 367 人、北区 564 人

国籍別外国人数

中国 1,838 人、韓国 520 人、フィリピン 476 人、
ベトナム 350 人、米国 174 人、ネパール 148 人、
台湾 124 人、インドネシア 116 人など
合計 87 カ国

在留資格別

永住者 1,553 人、留学 911 人、
日本人の配偶者等 355 人、
家族滞在 347 人、技能実習 310 人、
特別永住者 275 人など